

かわせみ

Hachijōji
Kawasemikai

Kawasemi



1900. 8

NO. 5

190 KAWASEMI

八王子カワセミ会・発行

カワセミ 第5号 目 次

	ページ
☆ 平成2年ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査	1
☆ カワセミ11羽をカウント	5
☆ 浅川のカルガモ繁殖状況調査	7
☆ 浅川にカワセミは何羽いるか	9
☆ 横山町・ハクセキレイ集団ねぐら調査	10
☆ 東浅川町のヒメアマツバメの動向	11
☆ 桜の花を食べるスズメ	12
☆ 鳥 信	17
☆ 自然と野生についての一考察	28
☆ カワセミに会いたい	29
☆ はじめて観たヤマセミ	30
☆ カルガモ繁盛記(その2)	31
☆ 私の「カワセミ会」所見	32
☆ 井戸の外	32
☆ 第5回 朝霧高原探鳥会	33
☆ 裏高尾小下沢から堂所山	36
☆ 鳥の歳時記・その2	38

平成2年ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査

—— カモ7種類，2033羽をカウント ——

毎年1月15日に、日本野鳥の会主催で行われる全国調査は、今回で9回目になり当会は3回目の昭和59年から参加していますが、今年は1月14日に浅川の本流、全支流で、会員が分担して一斉に調査を行いました。

今年の調査結果は別表1に示しましたが、主なポイントは次の通りです。

- (1) 今年の調査範囲は、北浅川、浅川本流、川口川、南浅川、城山川、山田川、湯殿川で、これを13区域に分割して行った。
昨年との違いは、北浅川を陵北大橋からさらに上流の大沢橋まで1区間範囲を広げたことであり、全調査区間は総延長で約39kmとなった。
- (2) カモ類全体では7種類，2033羽で、種類ではオカヨシガモが出なかったため昨年より1種少なかったが、総羽数では昨年の2109羽と比べ誤差の範囲内と思われる程度の差で殆ど変わらなかった。
- (3) 調査区間別にみると大きな差があり、浅川本流の鶴巻橋—大和田橋，大和田橋—長沼橋の2区間5.8km（総延長39kmの15%）が総羽数で最も多く、1102羽で全体の54%を占めた。
これに松枝橋—鶴巻橋間を加えた浅川本流に種類，数も集中していることが鮮明となった。
- (4) これを100㎡当たりの羽数で比較すると一層明確になる。大和田橋—長沼橋間が最も多く22羽、次いで鶴巻橋—大和田橋間が17羽となり、支流では殆どが4羽以下である。
- (5) 種類別では、カルガモ，コガモの2種が数が最も多く、この2種は南浅川の上流部以外どの区間でも記録された。次いでオナガガモ，ヒドリガモの順でこの4種で全体の98%を占めた。
浅川の希少種では昨年11羽のミコアイサが今年は3羽記録されたが、昨年2羽記録されたオカヨシガモは今年は記録されなかった。
- (6) 鶴巻橋—大和田橋—長沼橋間（5.8km）については、昭和59年以降7年分の記録が蓄積されたので、これを別表2表及び第1図の通り整理した。
総羽数では毎年1000羽前後で大きな差はない。種類別では調査を始めた59年はオナガガモが最も多かったが、その後はコガモが多くなってきたことなどの変化がみられる。
- (7) 多摩川水系全体に占める浅川水系の位置づけを、日本野鳥の会，東京支部の記録をもとに別表3に整理した。
理由は不明であるが、今年は多摩川水系全体の記録が昨年と比べ大巾に減少したため、相対的に当会調査分の浅川水系の比重が大巾に高まった。

別表 1. 本支流別（調査区間別）調査結果

川 橋 鳥 名	北浅川		浅川本流			川口川		南浅川		城山川	山田川	湯殿川		合計
	大沢 ↓ 陵北	陵北 ↓ 松江	松江 ↓ 鶴巻	鶴巻 大↓ 和田	大和 ↓ 田長沼	川口 ↓ 明治	明治 ↓ 合流	案内 ↓ 両境	両境 ↓ 合流	月夜峰 ↓ 合流	山田 ↓ 合流	白旗 ↓ 時田	時田 ↓ 合流	
マガモ		3	5	4		6	2		4	1		3		28
加加	14	78	32	127	51	80	68		102	8	43	16	26	645
コガモ	25	86	69	192	227	25	25		37	13	4	39	14	756
オオシホ														0
ヒトリ			11	13	128									152
村		2	27	182	158		22		18			18	5	432
ベッコ					17									17
ミアイ					3									3
合計	39	169	144	518	584	111	117		161	22	47	76	45	2033
種類数	2	4	5	5	6	3	4		4	3	2	4	3	7
距離 100m 当羽数	3.6	2.7	2.1	3.1	2.7	3.1	3.8	2.4	5.3	1.6	2.5	2.3	3.8	39.0
	1	6	7	17	22	4	3	0	3	1	2	3	1	5

注) 1. 100m当り羽数は合計欄の総羽数を距離で除したものです。

● 今年は次の会員の方々に調査をお願いしました。ご苦労様でした。

阿江範彦
粕谷和夫
河村道寛
斎藤高昭
平沢辰夫
三好恒雄

今井達郎
門口一雄
河村洋子
田中英吉
福島弥四郎

小沢憲雄
川上 志
木村晴美
榎沢 努
藤江 豊

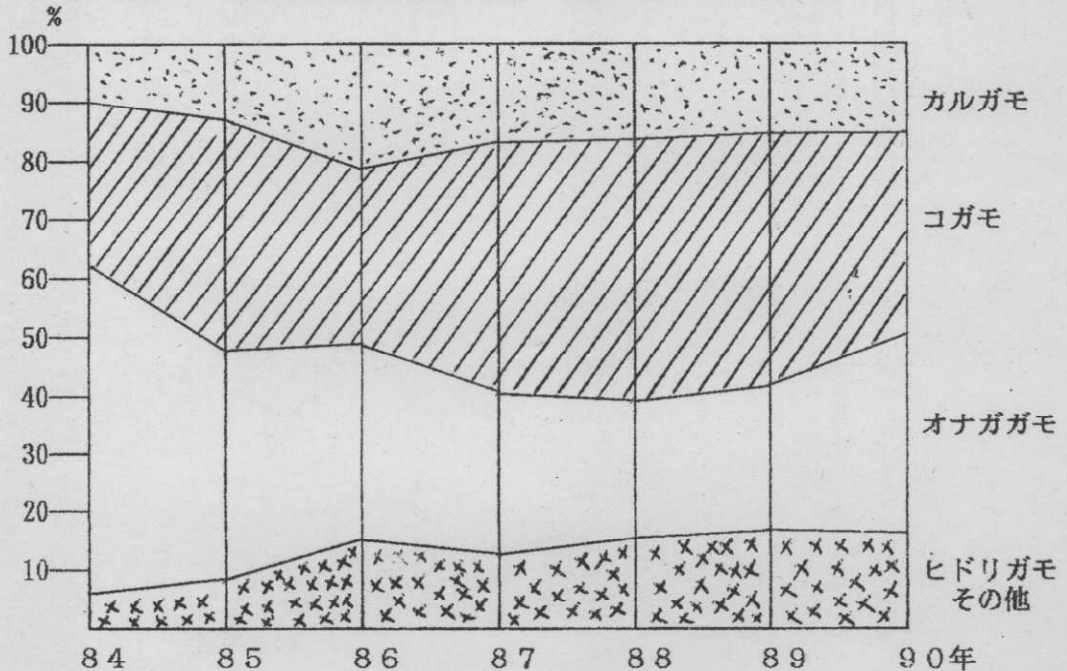
(アウエオ 順：敬称略)

別表 2. 鶴巻橋—大和田橋—長沼橋間の年別変化

種類	年	1984 昭和59	1985 昭和60	1986 昭和61	1987 昭和62	1988 昭和63	1989 平成 1	1990 平成 2
マ ガ モ		1	3	3			2	4
カ ル ガ モ		89	175	268	171	174	157	178
コ ガ モ		249	468	340	476	464	433	419
オカヨシガモ							5	
ヒドリガモ		46	83	167	108	133	141	141
オナガガモ		510	477	392	288	249	227	340
ハンビロガモ		2	3	3	18	12	16	17
キンクロハジロ			2					
ミコアイサ							11	3
合計		897	1211	1173	1061	1032	992	1102
種類数		6	7	6	5	5	8	7
100m当たり羽数		15	21	20	18	18	17	19

注) 鶴巻橋—大和田橋と大和田橋—長沼橋の合計である。

[第1図] カモ類主要4種の割合の推移 (別表2をグラフ化した)



別表 3. 多摩川水系全体に占める浅川水系の位置づけ

種 類	1989 (平成1年)			1990 (平成2年)		
	多摩川水系	Aの内当会分		多摩川水系	Aの内当会分	
	A	B	割合	A	B	割合
マ ガ モ	282	15	5%	34	28	82%
カ ル ガ モ	1140	653	57%	1036	645	62%
コ ガ モ	2066	770	37%	1546	756	49%
ヨ シ ガ モ	12			2		
オカヨシガモ	127	2	2%	38		
ヒドリ ガモ	881	193	22%	510	152	30%
アメリカヒドリ	3			1		
オナガ ガモ	2124	449	21%	1432	432	30%
ハシビロガモ	139	16	12%	50	17	34%
ホシハジロ	350					
キンクロハジロ	256					
スズガモ	152					
ミコアイサ	53	11	21%	66	3	5%
カモSP	210					
種類数計	13	8	62%	10	7	70%
個体数計	7795	2109	27%	4715	2033	43%

：参考資料：

1. 多摩川水系は日本野鳥の会・東京支部機関誌「ユリカモメ」の1990年6月号 (No. 414) の12-13頁から抜すい。
2. Aの内、当会分は本稿の別表1の合計欄から抜すい。
3. 1989年分の資料は八王子カワセミ会機関誌「カワセミ」の第3号 (1989年8月発行) から抜すい。

カワセミ 11羽をカウント

—平成2年1月14日、浅川流域一斉カウントで—

1月14日のガン・カモ類全国一斉調査の際、当会ではそれ以外の野鳥についてもカウントを行いました。

その結果は次の表のとおりで、全50種、カモ類7種を除くと43種となります。当日はカワセミが11羽も出、この内6羽が北浅川の陵北大橋—松枝橋間に集中しました。

数ではスズメの2371羽が第1位で、第2位がカワラヒワの1100羽、次に第3位がムクドリで700羽、第4位はユリカモメの424羽です。

数の少ないものでは、アカハラ1羽、クサシギ2羽、セグロカモメ4羽、タンギ5羽、エナガ6羽といったところです。

：ガン・カモ類以外の野鳥のカウント結果（調査区間別）一覧：

川 橋 鳥名	北浅川		浅川本流			川口川		南浅川		城山	山田	湯殿川		合計
	大沢 ↓ 陵北	陵北 ↓ 松枝	松枝 ↓ 鶴巻	鶴巻 大↓ 和田	大和 ↓ 田長沼	川口 ↓ 明治	明治 ↓ 合流	案内 ↓ 両境	両境 ↓ 合流	月夜 ↓ 峰合流	山田 ↓ 合流	白旗 ↓ 時田	時田 ↓ 合流	
ユイギ タイギ コサギ	8	1 5	8	1 8	1 5 8	4	3		1	2	1	1	2	26 51
トビ コシユイ キシ		1	2	2	2		1			1		1		6 13
イナドリ クサシギ イナギ タシギ	1 1	9 1 4			4 4 3		1							15 2 11 5
ユリカモメ セグロカモメ キジバト カサシギ コゲラ ヒバリ		22 16 6	38 16 1	189 27 1	148 4 42 1		1 26		16 11 1		4 8 1	1 5	9	424 4 263 11 6 12
キセキレイ ハシロキセキレイ セグロキセキレイ タヒロ	3 4 13	7 4 32 3	1 9 11 6	1 29 16 4	5 21 15 24	4 4 15 1	4 8 19 4	9 2 7	4 16 19 3	6 13 16 4	3 10 10 1	3 11 10 7	1 1 7 4	51 131 190 61

：ガン・カモ類以外の野鳥のカウント結果（調査区間別）一覧：（前頁より）

鳥名	北 浅 川		浅 川 本 流			川 口 川		南 浅 川		城山	山田	湯 殿 川		合計
	橋 大沢 ↓ 陵北	陵北 ↓ 松枝	松枝 ↓ 鶴巻	鶴巻 大↓ 和田	大和 ↓ 田長沼	川口 ↓ 明治	明治 ↓ 合流	案内 ↓ 両境	両境 ↓ 合流	月夜 峰↓ 合流	山田 ↓ 合流	白旗 ↓ 時田	時田 ↓ 合流	
ヒヨドリ	20	5	6	19	67	35	23	9	27	4	51	19	13	298
モス	2	2	1	4	3	7	2	1	2		2	3		29
ジョウビタキ	2	9	4	6	8	5	2	6	4	1	3	2		52
アカハラ										1				1
ツグミ	19	90	34	41	58	20	35	7	23	24	12	13	3	379
ウグイス	1	2	2	2	1	15								23
エナガ												6		6
ジョウカラ	8	7	2	4	6	5	17	7		3	10	2		71
メジロ			3			1	4	4			5			17
ホオジロ	8	110	25	29	85		6	5	7	6		7		288
カラカ	14	25	14		38	50	3		8	2	2	2		158
アオジ		6	4	5	15	20		9	2	2	6	2		71
カサビ	45	200	180	366	75	20	57		93	15	36	11	2	1100
イカル								6				23		29
シメ		7	1		2		1							11
スズメ	55	80	100	700	200	400	280	50	230	30	68	130	48	2371
ムクドリ	21	20	84	174	58	80	45		125	21	20	23	29	700
オナガ		30		6	5	10			5				4	60
バボカラス	8	34	2	4	6	15	12	2	7	3	2	3	6	104
バントカラス	2	7	26	1	9	10		4	4	4		3		70
マルガモ									1				1	1
アヒル					2		5	3	10		1			21
ドバト		35	11	57	61	15	58	17	75	3	34	2	22	390
種類合計 含む	22	34	34	30	40	26	29	18	28	25	23	28	16	50

浅川のカルガモ繁殖状況調査

(平成2年は過去3ケ年で最高)

平成2年(1990)の浅川本支流におけるカルガモ繁殖状況を6~7月の間、会員が分担してカウントしました。その結果は第1表のとおりで、今年は第2表のとおりこの調査をはじめて以来最高を記録しました。

(第1表) 平成2年・カルガモ繁殖状況調査集計票(6~7月)

	親子連れ			子無し成鳥	担当者
	組数	親	子		
北浅川 大沢橋~陵北大橋	2	2	11	19	今井達郎
北浅川 陵北大橋~鶴巻橋	0	0	0	23	河村道寛 河村洋子
浅川本流 松枝橋~鶴巻橋	1	1	3	28	三好恒雄
浅川本流 鶴巻橋~大和田橋	11	11	68	49	田中英吉
浅川本流 大和田橋~長沼橋	15	15	88	72	斎藤高昭
浅川本流 長沼橋~一番橋	7	7	36	142	門口一雄
浅川本流 一番橋~多摩川合流	2	2	11	54	阿江範彦
川口川 川口橋~明治橋	1	1	6	10	粕谷和夫
川口川 明治橋~浅川合流	14	14	72	98	三好恒雄
南浅川 案内橋~敷島橋	2	2	14	9	川上 憲
南浅川 敷島橋~浅川合流	9	10	45	37	榛沢 努
城山川 月夜峰新橋~浅川合流	9	10	28	32	木村晴美 斎藤高昭
山田川 山田橋~浅川合流	1	2	8	1	平沢辰夫
湯殿川 白旗橋~時田橋	9	10	60	11	平沢辰夫
湯殿川 時田橋~浅川合流	1	1	1	9	平沢辰夫
合 計	84	88	451	594	

全体で84組、子の数は451羽、平均子数は5.4羽(12羽連が2組ありこれが最高、1羽しか連れていない組もある)で、平均子数は過去3ケ年とあまり変わりありませんでした。

本支流別の年変化を第3表にまとめましたが、これによると本年は浅川本流、川口川、南浅川、湯殿川で増加していることがわかります（文責：粕谷和夫）。

（第2表）浅川におけるカルガモの繁殖状況年次変化

	親子連れ				子無し成鳥
	組数	親	子	平均子数	
1988	52	52	276	5.3	402
1989	45	49	228	5.1	379
1990	84	88	451	5.4	594

（第3表）浅川の本支流別カルガモ親子連れ組数

	1988	1989	1990
北浅川（大沢橋～陵北大橋）	2	0	2
浅川本流（陵北大橋～多摩川合流）	30	18	36
川口川（川口橋～浅川合流）	13	7	15
南浅川（案内橋～浅川合流）	2	6	11
城山川（月夜峰新橋～浅川合流）	0	9	9
山田川（山田橋～浅川合流）	1	1	1
湯殿川（白旗橋～浅川合流）	4	4	10
合計	52	45	84

身近かな生き物調査について

（鳥以外の自然にも眼を向けよう）

粕谷和夫

今年は環境庁主催の第4回緑の国勢調査として「1990年身近な生き物調査」が実施されています。昨年から八王子カワセミ会の会員になっていた方には本調査の実施要領等が届いており、既に一部調査に取り組んでいることと思います。私は、今年の5月のゴールデンウィークの時に、春の花コース、タンポポコースなど約30メッシュの調査を行ないました。

夏の虫コース、虫の声コース、秋の花コースなど、未だこれから始めるものも多くあります。この際、鳥以外の身近な生き物にも眼を向けようではありませんか。

なお、調査が終了したら、コース別にその都度集計票に記入のうえ、粕谷宛送付をお願いします。

浅川にカワセミは何羽いるか

(意外に少なく全体で20羽以下か)

粕谷和夫

第1表は恩方の大沢橋から日野市の多摩川合流点までの浅川本流における毎月1回の定期カウントにおいて出現したカワセミの数です。区間別にはダブリはありませんが、月別には調査日が違っていますので厳密には意味を持ちませんが、おおよその数は、把握されていると思います。これによれば、2～3月が最も多く14～15羽、繁殖期の5～6月は減って4～5羽しか出現していません。

第2表は、毎年1月15日前後に行なわれているガン、カモ、ハクチョウ類全国一斉カウントに参加したときに合わせて調査した結果です。調査範囲は浅川本流は長沼橋から上流で長沼橋から下流の多摩川合流点までは含まれていませんが、その代わり浅川の支流が含まれています。これによっても過去3年間10羽前後で第1表と大差ありません。

実際には調査時における把握漏れもあると思われますので、これより多少は多いと思いますが、それにしても予想よりは少ないのではないのでしょうか。最近、カワセミが増加しているのか、減少しているのかは、これだけのデータでは断定出来ませんが、最近浅川は河川改修が進み、兩岸コンクリート護岸区域が増えているため、カワセミの営巣適地が年々減少していることは間違いありません。

(第1表) 浅川本流におけるカワセミの数(1990年1月～6月)

区 間 月	大沢 ↓ 陵北大	陵北大 ↓ 松枝	松枝 ↓ 鶴巻	鶴巻 ↓ 大和田	大和田 ↓ 長沼	長沼 ↓ 一番	一番 ↓ 合流	計
1月	0	6	1	1	1	0	0	9
2	3	6	0	0	2	3	0	14
3	2	10	0	0	2	1	0	15
4	2	2	3	0	1	0	0	8
5	0	4	0	0	0	1	0	5
6	1	2	1	0	0	0	0	4

注 1. 区間名には「橋」が省略してある。「合流」は多摩川合流点である。
2. 月別の調査日時は一斉ではない。

(第2表) 1月の浅川長沼橋から上流の本支流におけるカワセミの数

年 月 日	羽数	範囲
88・1・15	10	本流(陵北大橋～長沼橋) 支流(川口、南浅川、湯殿川)
89・1・15	10	“(” ~ ”) ” (プラス城山川、山田川)
90・1・14	11	“(大沢橋 ~ ”) ” (” ”)

横山町ハクセキレイ集団ねぐらの動向

粕谷和夫

八王子市横山町の三角広場のハクセキレイは、甲州街道の道路を隔てて反対側の富士銀行ビルの屋上に集結後、常緑樹のヤマモモ（2本）、クス（2本）をねぐらとしています。その数について朝の飛び出し時を本年2月から毎月1回カウントしました。

飛び出しは日の出前の暗い時刻から始まり、明るくなるまでのほぼ1時間で終了すること、月別には3月を除き、2月と4月が約170羽、5月、6月と夏に向かって減少していることなどが明らかになりました。この調査は冬は厳寒の中、夏は草木も眠るうしみつ時近くのカウントで大変辛いものですが、今後も続けたいと思っています。

ハクセキレイの朝のねぐらからの飛び出し数（1990年）

時刻 \ 月日	2月11日	3月19日	4月7日	5月7日	6月26日
3:00~3:30					1
3:31~4:00				8	6
4:01~4:30			7	42	5
4:31~5:00			163	3	
5:01~5:30		38	2		
5:31~6:00		5			
6:01~6:30	167				
計	167	43	172	53	12
少し明るくなる時刻	6:04	5:22	4:42	4:16	4:09
明るくなる時刻		5:34	4:57	4:25	4:19

注 場所は八王子市横山町三角広場の常緑街路樹

東浅川のヒメアマツバメの動向

川上 意

東浅川の京王線高架下のヒメアマツバメの集団コロニーを引き続き、月1回、観察しています。今年の1月の氷点下7℃という厳寒にも耐え無事越冬し、5月にはヒナ4羽を観察しました。

なお、イワツバメは完全に追い出されたようで、今年はここでは1組も営巣しませんでした。

東浅川のヒメアマツバメ観察概要(1990年)

観察 月日	朝の飛出し		夕の帰巢		特 記 事 項
	時刻	数	時刻	数	
1・28			1620 ↓ 1645	30	八王子市氷点下7℃の厳寒の中、巣の周囲はつららあるも元気に越冬している。
2・24	0815 ↓ 0840	40	1630 ↓ 1700	40	一部の巣の上部に破損あり。
3・09	0752 ↓ 0845	42	1700 ↓ 1740	40	巣の数をカウントした。40個で昨年とあまり変わらない。
4・15	0700 ↓ 0745	30			1羽が巣からぶら下がって死んでいた(足に糸が絡んでいた)。
5・13	0715 ↓ 0800	30	1640 ↓ 1740	40	西側の巣でヒナ4羽、かなり大きく育っており、その内の1羽は巣にぶら下がって羽をバタつかせていた。
6・30	0700 ↓ 0740	30	1750 ↓ 1840	30	ねぐらを飛び出した約30羽の内、10羽くらいがその場に残り、巣に出入りしていた。

なお、3月9日の観察時、東浅川京王線高架下から飛び立ったものと別のヒメアマツバメと思われる約30羽の集団が高度200メートルくらいを南から北へ飛んでいくのを観察した。

(お願い) ヒメアマツバメの繁殖状況、子育て状況がもうひとつはつきりしません。できれば電線工事用のはしご車の様なものを借りてきて、巣の中を観察したいと思っています。どなたかそのような車を、本趣旨を御理解いただいたうえで好意で、貸し手くださる方がおりましたら紹介していただきたくよろしくお願ひします。

桜の花を食べるスズメ

——浅川流域を中心に観察し、平成2年、9ヶ所で確認——

スズメが桜花を食べる行動が今、全国的に話題になっています。

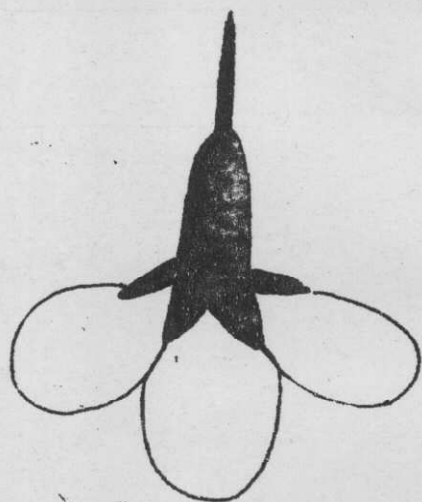
「都市鳥研究会誌 (Vol. 5, No. 3, 1989年11月)」によれば、1988年の全国調査の結果、北は岩手県から南は宮崎県まで、全国で延べ144ヶ所からこの行動を観察したという報告がなされました。

この144ヶ所の中には、八王子市から1ヶ所、日野市から1ヶ所報告がなされております。八王子市では香川淳氏が浅川河川敷きのソメイヨシノ、日野市では為貝和宏氏が実践女子大学のソメイヨシノ (いずれも1988年観察) となっております。

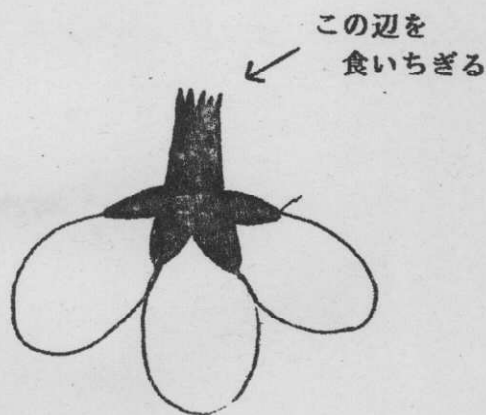
そこで、本年 (1990年) の桜の開花期に浅川流域における実態をもう少し広範囲に調べることにし、八王子カワセミ会会員に呼び掛けて調査したところ、結果は次表のとおりとなりました。

報告数は延べ11報告、この内花を食べたか否かが未確認が1報告 (4月4日福島氏分) あり、確認は10報告ですが、同一場所、同一樹の報告 (観察日が異なる) が1ヶ所ありますので実質9ヶ所で確認されました。

前記「都市鳥研究会誌」によるとスズメが桜の花を食べるパターンは3つのタイプに分類されるとのことですが、ここでは①スズメが実際にくちばしで花をちぎり、くわえているところを見たか、または②下図のような形 (右図) で花ごと桜の樹の下に落ちている所を見たか、の2通りの方法で観察しました。また②については樹別に落ちていた花の数をカウントしました。



正常花



スズメに食べられて落ちた花

本年の調査結果を概見すると次のようになります。

- (1) 桜の種類はオカメザクラ（1例）、ソメイヨシノ（6例）、ヤマザクラ（2例）と3種類で確認されました。
- (2) 次表にあるとおり、全てのサクラの樹が平等に食べられるのではなく、スズメに食べられる樹は偏っている様に見受けられた。
- (3) 今回最も多く食べられた樹は、北浅川堤防（八王子市清川町）のA樹で、2回にわたり約1000花ずつ計2000花が観察された。
これを観察した永見氏によると、昨年もこの現象は観察していたが、このように桜花が大量に落ちている原因が判らず不審に思っていたという。

その他の観察例

——スズメが梅の花、ヒヨドリがドウダンツツジ——

本年は類似例がさらに2例報告されましたので合わせてお知らせします。

次表の最後に記載されておりますが、門口一雄氏によるスズメが梅の花を食べる例、小生（粕谷）によるヒヨドリがドウダンツツジを食べる例です。

ヒヨドリの方は花を下に落とすことなく、丸ごと食べてしまう例です。

（文責：粕谷和夫）

桜花を食うスズメの事例調査結果表（1990年）

月 日	場 所	樹 種	花が食われた樹数	観 察 状 況	観 察 者
3・25	喜福寺 八王子市 中野山王	オカメ サクラ	全体1本の 内1本	樹上の花の中にスズメ数羽。その内、1羽だけ花をくわえている所を1回だけ観察。樹下には食われて落ちた花約10個有り。	粕谷 和夫
4・1	富士森公園 八王子市 台町	ソメイ ヨシノ	全体 210 本の内 6本	6本の内1本は15羽のスズメが実際に花を食べているのを観察。他は樹下に落ちた花をカウント。 A樹・・・・・・・・260個 B樹・・・・・・・・50個	粕谷 和夫

桜花を食うスズメの事例調査結果表—前頁より—

月 日	場 所	樹 種	花が食われた樹数	観 察 状 況	観 察 者
4・1	富士森公園 八王子市 台町	ソメイ ヨシノ	全体 210 本の内 6本	C樹・・・・・・・・ 30個 D樹・・・・・・・・ 30個 E樹・・・・・・・・ 1個 F樹・・・・・・・・ 10個 A樹が目撃樹で、その間に260 個中60個落下した。	粕谷 和夫
4・1	滝合小学校 日野市 西平山	ソメイ ヨシノ	全体10本 の内4本	樹下に落ちた花を観察。 A樹・・・・・・・・ 5個 B樹・・・・・・・・ 5個 C樹・・・・・・・・ 5個 D樹・・・・・・・・ 5個	粕谷 和夫 斎藤 高昭
4・1	さいかちげ き公園 日野市 西平山	ソメイ ヨシノ	全体5本 の内1本	樹下に落ちた花を観察。 A樹・・・・・・・・ 5個	粕谷 和夫
4・3 午前中	北浅川堤防 八王子市 清川町 (左岸、中 央高速道橋 下流側)	ソメイ ヨシノ	全体約30 本の内 殆どの樹	スズメ5羽がA樹の花を盛んに食 べている所を観察。 スズメ2羽がB樹の花を食べてい る所を観察。 樹下に落ちた花をカウント。 A樹・・・・・・・・約1000個 B樹・・・・・・・・20-30個 C群(複数)・・・・10-20個 D群(複数)・・・・1-3個	永見 博子

桜花を食うスズメの事例調査結果表—前頁より—

月 日	場 所	樹 種	花が食われた樹数	観 察 状 況	観 察 者
4・4	北浅川の堤防 八王子市 清川町 (清川ランドの横で永見氏観察の桜の下の下流側)	ソメイ ヨシノ		桜の花にスズメの群れがいるのを観察。 (ただし、花を食べたか否かは未観察)	福島 弥四郎
4・6	喜福寺 八王子市 中野山王	ヤマ ザクラ	全体3本の内2本	樹下に落ちた花を観察。 A樹・・・・・・・・10—20個 B樹・・・・・・・・10—20個	粕谷 和夫
4・6	本立寺 八王子市 上野町	ヤマ ザクラ	全体1本の内1本	樹下に落ちた花を観察。 A樹・・・・・・・・約50個	粕谷 和夫
4・6	暁児童公園裏 八王子市 元横山町	ソメイ ヨシノ	全体2本の内2本	樹下に落ちた花を観察。 A樹・・・・・・・・約100個 B樹・・・・・・・・約100個	
4・6	暁公園 八王子市 暁町	ソメイ ヨシノ	全体16本の内3本	樹下に落ちた花を観察。 A樹・・・・・・・・10—20個 B樹・・・・・・・・10—20個 C樹・・・・・・・・10—20個	粕谷 和夫

桜花を食うスズメの事例調査結果表—前頁より—

4

月 日	場 所	樹 種	花が食われた樹数	観 察 状 況	観 察 者
4・7	北浅川の堤防 八王子市 清川町 (4月3日 と同一地)	ソメイ ヨシノ	全体約30 本の内 1本	4月3日、永見氏観察の同一A樹の下にさらに1000個の落花を観察。	永見 博子

: 類 似 例 :

3・26	八王子市 片倉町 門口氏自宅 付近 (スズメ)	梅		門口氏自宅の裏の梅林に2羽のスズメが来て、梅の花をくわえ、下に落としていた。	門口 一雄
4・14	八王子市 天神町 粕谷氏宅 (ヒヨドリ)	ドウダ ンツツ ジ		粕谷氏自宅の庭のドウダンツツジに、1羽のヒヨドリが来て、ドウダンツツジの花を丸ごと(10数個)食べた。	粕谷 和夫

鳥 信 (1990.1-6)

＝浅川にカワウ、タゲリ、オシドリ、アメリカコガモ、アリスイ等出現＝

平成2年1月－6月分の浅川流域における鳥信をとりまとめました。
今回は多数の会員から数多くの情報が寄せられ、鳥信欄が充実しました。

1. 夏鳥の初認

(1) ツバメ

3・18	1羽	浅川 (大和田橋一八高線鉄橋)	斎藤高昭
3・18	1羽	” (中央線鉄橋下流側)	”
3・18	数羽	” (松枝橋付近)	河村夫妻
3・20	2羽	多摩御陵付近	清水 茂
3・20	6羽	日野市東豊田1丁目 (堀の内カサノスタフ)	東 豊
3・20		川口川－浅川合流点	福島弥四郎
3・22	2羽	浅川 (大和田橋下流側300m)	三好恒雄
3・24	1羽	八王子市田町 (丸三運輸付近)	榎沢 努
3・24	4羽	JR西八王子駅前	今井達郎
3・24	2羽	八王子市式分方町 (農協西八支店前)	川上 志
3・25	1羽	川口川 (川口橋上流側100メートル)	三好恒雄
3・26	3羽	浅川 (大和田橋下流側)	小山万太郎
3・28		八王子市中野上町 (清水会員自宅)	清水 茂

(2) イワツバメ

3・18	3羽	浅川 (長沼橋付近)	斎藤高昭
3・19	3羽	” (暁橋－浅川大橋)	榎沢 努
3・19	6羽	JR八王子駅	小山万太郎
3・19	数羽	”	粕谷和夫
3・27	6羽	八王子市千人町 (八王子工業高校)	清水 茂

(3) ササゴイ

5・4	1羽	浅川 (浅川橋下流側)	田中栄吉
5・11	1羽	” (松枝橋下)	河村夫妻
5・13	1羽	” (浅川橋下流側)	斎藤高昭
5・13	1羽	” (中央高速架橋上流側)	”
5・18	1羽	” (松枝橋－中央高速架橋)	三好恒雄
5・20	1羽	” (浅川橋－暁橋)	粕谷和夫
5・20	4羽	北浅川 (陵北犬橋－松枝橋)	河村夫妻

- (4) コチドリ
 3・18 3羽 浅川(中央線鉄橋付近) 斎藤高昭
- (5) ウグイスの初さえずり
 3・10 八王子市恩方、松竹林道(松竹橋から登り30分の地点) 今井達郎
 3・11 元八王子3丁目、霞ヶ丘住宅(川上会員自宅の庭) 川上 壽
 3・11 北浅川(陵北大橋一松枝橋) 粕谷、河村夫妻
 3・15 八王子市中野上町(福島会員宅の隣家) 福島弥太郎
- (6) オオヨシキリ
 5・3 1羽 浅川(陵北大橋一松枝橋) 粕谷、三好、榛沢、河村夫妻
 5・7 1羽 " (中央線鉄橋下) 小山万太郎
 5・8 1羽 " (大和田橋一水菅橋) 斎藤高昭
 5・20 1羽 " (浅川橋一暁橋) 粕谷和夫
- (7) ホトトギス
 5・27 八王子市北野台団地周辺の山(6月中旬頃まで鳴く) 平沢辰夫

2. 冬鳥の終認

- (1) コガモ
 5・6 2羽 北浅川(東大沢橋一陵北大橋) 今井達郎
 5・6 6羽 浅川(浅川橋一暁橋) 粕谷和夫
 5・7 数羽 " (中央線鉄橋下) 小山万太郎
 5・13 3羽 " (大和田橋一長沼橋) 斎藤高昭
- (2) オナガガモ
 3・19 1番 浅川(大和田橋下流側) 小山万太郎
- (3) ジョウビタキ
 3・13 1羽 八王子市中野上町(福島会員自宅) 福島弥四郎
- (4) ツグミ
 5・3 1羽 浅川(松枝橋上流側) 粕谷和夫

3. 通過

- (1) キアジシギ
 5・2 5羽 浅川(大和田橋上流側) 斎藤高昭
 5・3 1羽 " (" ") 小山万太郎

(1) キアシシギ (前頁続き)

5・3	4羽	浅川 (陵北大橋—松枝橋)	粕谷、三好、榛沢、河村夫妻
5・6	2羽	北浅川 (東大沢橋—陵北大橋)	今井達郎
5・12	12羽	浅川 (長沼橋—一番橋)	門口一雄
5・18	4羽	" (松枝橋—鶴巻橋)	三好恒雄
5・19	7羽	" (陵北大橋—松枝橋)	河村夫妻
5・20	8羽	" (" — ")	"
5・22	1羽	" (鶴巻橋—大和田橋)	榛沢 努

(2) ノビタキ

4・2	1羽	(夏羽) 浅川 (松枝橋下流側300メートル・河原)	河村洋子
4・18	2羽	浅川 (大和田橋—浅川大橋、河原のランド脇の水溜りの草むら)	三好恒雄

4. 希少種

(1) カイツブリ

1・21	2羽	浅川 (長沼橋—一番橋)	門口一雄
2・24	1羽	" (" — ")	"

(2) カワウ

2・8		浅川 (浅川橋—水菅橋)	
	第1群	約 200羽	→浅川橋上流で稲荷坂方面へ向かう
	第2群	約 50羽	} 合流後、再分化し①浅川下流と②稲荷坂方面へ向かう
	第3群	約 3羽	
2・9		約 100羽	浅川 (暁橋—浅川大橋、暁橋上空を稲荷坂方面へ向かう)
2・10	4羽	浅川 (一番橋—多摩川合流)	阿江範彦
2・18	約 300羽	" (大和田橋—長沼橋)	斎藤高昭
2・18	約 300羽	" (松枝橋—鶴巻橋)	三好恒雄
2・24	30羽	" (長沼橋—一番橋)	門口一雄
3・4		" (大和田橋—長沼橋)	探鳥会
3・14		" (浅川橋から鶴巻橋方向)	福島弥四郎
3・18	1羽	" (一番橋—多摩川合流)	阿江範彦
3・28	28羽	" (大和田橋—長沼橋)	斎藤高昭
4・15	1羽	" (" — ")	"

- (2) カワウ (前頁より続き)
 4・15 2羽 浅川 (長沼橋—一番橋) 門口一雄
- (3) ゴイサギ
 6・3 4羽 北浅川 (大沢橋—陵北大橋) 今井達郎
- (4) アオサギ
 2・4 1羽 浅川 (松枝橋—鶴巻橋) 探鳥会
 2・10 1羽 " (一番橋—多摩川合流) 阿江範彦
 2・18 2羽 " (大和田橋—長沼橋) 斎藤高昭
 2・25 1羽 " (新浅川橋下) 粕谷和夫
- (5) クロトキ
 1・21 1羽 浅川 (長沼橋—一番橋) 門口一雄
 2・10 3羽 " (一番橋—多摩川合流) 阿江範彦
 3・18 1羽 " (長沼橋下流側) 斎藤高昭
 4・15 1羽 " (一番橋—多摩川合流) 阿江範彦
 6・9 2羽 " (" — ") "
- (6) オシドリ
 6・19 ♂1羽 浅川 (大和田橋上流側、斎藤会員
 自宅前、※写真有り) 斎藤高昭
 6・23 ♂1羽 " (新浅川橋下) 門口一雄
- (7) アメリカコガモ
 3・24 ♂1羽 浅川 (長沼橋下流側) 門口一雄
 4・1 " " (") 斎藤、三好、平沢、粕谷、
 4・15 " " (") 門口一雄
- (8) ヨシガモ
 2・18 ♂1羽 浅川 (中央線鉄橋下流側の水面
 ヒドリガモの群れの中) 斎藤高昭
- (9) アメリカヒドリ
 1・21 ♂1羽 浅川 (長沼橋—一番橋) 門口一雄
 2・24 " " (" — ") "
 3・24 " " (" — ") "
 4・1 " " (" — ") 斎藤、三好、平沢、粕谷、
- (10) キンクロハジロ
 1・15 4羽 浅川 (一番橋—多摩川合流、
 日野市市民プールの中) 阿江範彦

- (10) キンクロハジロ (前頁より続き)
 2・10 6羽 浅川 (一番橋—多摩川合流、内1羽
 は日野市市民プールの中) 阿江範彦
- (11) ミ コ ア イ サ
 1・14 ♀3羽 浅川 (大和田橋—長沼橋) 斎藤高昭
 1・15 ♂2、♀5羽 " (一番橋—多摩川合流) 阿江範彦
 1・17 ♀3羽 " (大和田1丁目公園横) 小山万太郎
 1・18 ♀2羽 " (大和田橋下) "
 1・22 ♂1、♀2羽 " (") "
 1・22 ♀2羽 " (新浅川橋下流側) "
 1・21 23羽 " (長沼橋—一番橋) 門口一雄
 2・10 ♂6、♀2羽 " (一番橋—多摩川合流) 阿江範彦
 2・18 10羽 " (大和田橋—長沼橋) 斎藤高昭
 3・18 ♂1、♀1羽 " (" — ") "
- (12) サ シ バ
 5・1 1羽 高尾小下沢林道 (キャンプ場
 から上、ピークイの声のみ) 粕谷和夫
- (13) ハ ヤ ブ サ
 3・4 1羽 浅川 (大和田橋—長沼橋) 探鳥会
- (14) コジュケイ
 4・30 JR八王子駅北前広場植込みの中 門口一雄
- (15) ク イ ナ
 3・18 1羽 浅川 (中央線鉄橋上流側) 斎藤高昭
- (16) タ ゲ リ
 2・3 1羽 浅川 (松枝橋下流側約 300メートル
 の河原) 河村夫妻
- (17) ハ マ シ ギ
 1・15 3羽 浅川 (一番橋—多摩川合流) 阿江範彦
 1・21 7羽 " (長沼橋—一番橋) 門口一雄
 5・12 12羽 " (" ~ ") "
 5・20 65羽 " (一番橋—多摩川合流
 内45羽は夏羽) 阿江範彦
- (18) タ シ ギ
 4・22 1羽 小宮公園 藤江 豊、田中英吉

- (19) セグロカモメ (前頁より続き)
- | | | | |
|------|----|--------------|------|
| 2・4 | 1羽 | 浅川 (松枝橋一鶴巻橋) | 探鳥会 |
| 2・18 | 2羽 | " (大和田橋一長沼橋) | 斎藤高昭 |
| 2・24 | 1羽 | " (長沼橋～一番橋) | 門口一雄 |
| 2・25 | 2羽 | " (新浅川橋下) | 粕谷和夫 |
| 3・18 | 2羽 | " (大和田橋一長沼橋) | 斎藤高昭 |
| 3・23 | 1羽 | " (鶴巻橋一大和田橋) | 榛沢 努 |
| 3・24 | 1羽 | " (長沼橋～一番橋) | 門口一雄 |
- (20) ウ ミ ネ コ
- | | | | |
|------|----|--------------|------|
| 1・21 | 1羽 | 浅川 (長沼橋～一番橋) | 門口一雄 |
|------|----|--------------|------|
- (21) ツ ツ ド リ
- | | | | |
|-----|--|---------------|------|
| 5・4 | | 八王子城跡周辺 (声のみ) | 粕谷和夫 |
|-----|--|---------------|------|
- (23) ア リ ス イ
- | | | | |
|------|----|---|------|
| 2・18 | 1羽 | 浅川 (中央高速架橋上流側約 100m の北側堤防の下の枯れ草を刈った開けた場所で、しきりに枯草の中に首を突込んでいた。頭から背にかけて黒い線状がはっきり見え、灰色のウロコ模様が体にあり、尾は細長い四角形であった) | 三好恒雄 |
|------|----|---|------|
- (24) ア オ ゲ ラ
- | | | | |
|------|----|--------------------|-------|
| 1・5 | 1羽 | 小宮公園 | 斎藤高昭 |
| 1・7 | 1羽 | 八王子市檜原町の林 | 河村夫妻 |
| 2・10 | 1羽 | 浅川 (陵北大橋下流側左岸の林の中) | 粕谷、河村 |
| 2・17 | 1羽 | 片倉城跡公園 | 平沢辰夫 |
| 3・17 | 1羽 | " | " |
| 4・28 | 1羽 | " | " |
| 5・3 | 1羽 | 富士森公園浅間神社 | 粕谷和夫 |
| 6・30 | 1羽 | 小宮公園 | 藤江、田中 |
- (24) ア カ ゲ ラ
- | | | | |
|-----|----|----------|-------|
| 4・4 | 1羽 | 今熊神社駐車場 | 福島弥四郎 |
| 5・4 | 1羽 | 元八王子東京霊園 | 粕谷和夫 |

(25)	カ	ワ	ガ	ラ	ス			
	2	・	25	1	羽	南浅川（白山橋上流10㍍、浅川支所 西北部）	川上 憲	
	4	・	3	1	羽	東京造形大学前の御殿谷川	福島弥四郎	
	5	・	1	1	羽	高尾小下沢林道（キャンプ場の上流）	粕谷和夫	
(26)	ミ	ソ	サ	ザ	イ			
	5	・	1	5	羽	高尾小下沢林道（キャンプ場の上流）	粕谷和夫	
(27)	ル	リ	ビ	タ	キ			
	1	・	15	1	羽	小宮公園	斎藤高昭	
	1	・	21	1	羽	片倉城跡公園	平沢辰夫	
(28)	ク	ロ	ツ	グ	ミ			
	5	・	1	3	羽	高尾小下沢林道（キャンプ場の上流）	粕谷和夫	
	5	・	4	数	羽	八王子城跡周辺	"	
	5	・	5	4	羽	入山峠下（八王子市小津町）	"	
	5	・	5	4	羽	今熊山周辺	"	
(29)	ア	カ	ハ	ラ				
	1	・	5	1	羽	小宮公園手前トンネルの切り通し	斎藤高昭	
	3	・	4	1	羽	浅川（大和田橋一長沼橋）	探鳥会	
(30)	シ	ロ	ハ	ラ				
	1	・	21	1	羽	片倉城跡公園	平沢辰夫	
	1	・	23	1	羽	小宮公園	藤江、田中	
	4	・	22	2	羽	"	"	
(31)	ヤ	ブ	サ	メ				
	5	・	1	数	羽	高尾小下沢林道（キャンプ場の上流）	粕谷和夫	
	5	・	4	数	羽	八王子城跡周辺	"	
(32)	コ	ヨ	シ	キ	リ			
	6	・	19	1	羽	浅川（大和田橋下流 150㍍共励保育 園前の河原の草叢でさえずる）	斎藤高昭	
	6	・	28	1	羽	"（ " " " ）	"	
(33)	キ	ビ	タ	キ				
	5	・	4	1	羽	八王子城跡南側	粕谷和夫	
	5	・	4	1	羽	向陽公園（八王子市山田町）	"	
	5	・	5	1	羽	入山峠下（八王子市小津町）	"	

- (34) オ オ ル リ
5・1 4羽 高尾小下沢林道 (キャンプ場の上流) 粕谷和夫
- (35) エ ナ ガ
1・7 2羽 八王子市檜原町の林 河村夫妻
- (36) ヤ マ ガ ラ
1・21 4羽 片倉城跡公園 平沢辰夫
2・17 12羽 " "
- (37) ウ ソ
3・10 ♂♀各1羽 八王子市恩方、松竹林道 (松竹橋から登り約45分の地点) 今井達郎
4・30 1羽 小宮公園 川上 憲
- (38) イ カ ル
5・3 1羽 八王子市子安町3丁目 (住宅地内) 粕谷和夫
- (39) コ ム ク ド リ
5・3 2羽 浅川 (陵北大橋—松枝橋) 粕谷、三好
榛沢、河村夫妻
- (40) カ ケ ス
4・15 32羽 浅川 (陵北大橋下流側南から北へ川の上空を渡る) 粕谷、河村夫妻
4・22 2羽 小宮公園 藤江、田中
4・28 2羽 片倉城跡公園 平沢辰夫
- (41) ア オ バ ズ ク
5・28 初鳴き 元八王子3丁目浅川実験林北側 川上 憲

5. 行 動

- (1) モ ビ ン グ
4・15 セグロセキレイ約10羽がチョウゲンボウに浅川 (陵北大橋—松枝橋) 粕谷、河村夫妻
6・17 ツバメ約30羽がオナガに " (陵北大橋—松枝橋) 河村夫妻
- (2) ハクセキレイのねぐら
①八王子市横山町3丁目の三角広場の常緑樹、1月—6月の間ねぐらとして続いている。(詳細は10ページ参照) 粕谷和夫

5. 行 動 (前頁より続き)

(2) ハクセキレイのねぐら

②八王子市北野町、北野下水処理場分場前の街路樹
(落葉樹)、再びねぐらに使い始める (H. 2. 6. 19)

斎藤高昭

(3) ゴ イ サ ギ

1・22 1羽 (幼鳥) 浅川 (大和田橋上流側カモの
餌づけ場でパンをカモと一諸に食す)

小山万太郎

(4) ヒ ヨ ド リ

1・9 八王子市天神公園の木に約 100羽のヒヨドリ
の群れが集まる

粕谷和夫

(5) ハシボソカラス

4・24 浅川 (大和田橋上流側の河原で石の間へエサ
をかくし、小石や草をその上にのせていた)

小山万太郎

(6) スズメが桜の花を食べる (詳細は12ページ 参照)

粕谷和夫

6. 繁 殖

(1) チョウゲンボウの営巣

浅川の新浅川橋付近の水道局 500トン給水タンク
(八王子市北野町) に営巣。6月1日頃から♂♀
つがいを確認。6月28日、巣立ちヒナ1羽が加
わり3羽を確認。7月1日小山会員はヒナ2羽
を観察)

斎藤高昭

小山万太郎

(2) コ ゲ ラの営巣

5・6 北浅川夕焼け橋 (八王子市西寺方町) 南際
のクルミの木。5.12-5.20 親鳥と雛を確認。

探鳥会

川上 志

5・12 興福寺参内西側のニレの木。5.13雛3羽確認。
5.19巣立ち (八王子市東浅川町)

川上 志

(3) カワセミの営巣

5・20 浅川、中央高速架橋上流側、養鶏場前。

斎藤高昭

(4) コチドリの営巣

①浅川大橋下流側水管橋と大和田橋の中間地

4・22 営巣を発見 (知人に教えられ)。4・28~30
営巢中。5・1~2 ♂♀交代で抱卵中を観察。

5・3~5 姿が見当たらず (ふ化して移動か?)

田中栄吉

6. 繁殖 (前頁より続き)

- (4) コチドリの営巣
 6・8 浅川 (浅川橋-晓橋で擬傷を観察) 粕谷和夫
- (5) イカルチドリの交尾
 4・22 浅川 (大和田橋上流側で観察) 小山万太郎
- (6) ハクセキレイの交尾
 4・14 浅川 (浅川橋-浅川大橋で観察) 粕谷和夫
- (7) キジバトの雛
 6・30 八王子市三崎町、三恵ホテル玄関
 巣の中の雛が大きくなっていた 粕谷和夫
- (8) ヒヨドリの雛
 6・22 八王子市天神町、粕谷会長自宅の庭
 雛4羽フ化、2羽を2階から観測 粕谷和夫
- (9) カルガモの雛
 ①浅川の晓橋付近から新浅川大橋付近まで、5月10日から
 6月7日現在で12組、雛79羽をカウント。 小山万太郎

no	推定フ化月日	雛数	観 察 場 所
1	5月10日頃	12	大和田橋上流側
2	10日 "	5	"
3	16日 "	8	晓橋上流側
4	20日 "	7	"
5	20日 "	2	"
6	21日 "	5	大和田橋上流側
7	27日 "	9	"
8	28日 "	7	"
9	29日 "	4	大和田3丁目グランド横
10	30日 "	6	晓橋上流側
11	6月1日 "	7	新浅川橋下流側
12	3日 "	7	晓橋上流側

②八王子市中野山王町の喜福寺の池

5月3日 9羽フ化、6月3日 6羽フ化

粕谷和夫

6. 繁殖 (前頁より続き)

- (10) ヒバリの親子
5・27 浅川 (暁橋下で親が巣立ち雛に餌を与える) 粕谷和夫
- (11) シジュウカラの雛
5・7 日野市百草、阿江会員自宅の巣箱で雛フ化 阿江範彦
- (12) カワラヒワの親子
5・3 浅川 (陵北大橋—松枝橋、巣立ち雛連れ) 粕谷和夫
- (13) ムクドリの営巣
6・3 八王子市大和田6丁目、小山会員宅付近で
巣立ち雛4羽
6・5 上記と同じ場所で2度目の営巣開始 小山万太郎
- (14) ハシボソガラスの営巣
5・1 八王子市千人町、市立図書館前の国道20号
街路樹(イチョウ)に営巣
5・6 北浅川夕やけ橋脇の林の中に営巣、ヒナ有り 探鳥会
5・8 浅川、八王子市大和田町6丁目
5・12 斎藤会員宅前、 小山万太郎
6・4 雛3羽、6月4日巣立ち

7. その他

- (1) ハタネズミ 5・6 浅川 (浅川橋—暁橋、河原の草叢で死体1頭を
発見、体長約8cm、尾約6cm)
- (2) コオモリ 4・1 八王子市中野上町 (夕方) 福島弥四郎
4・23 浅川 (浅川大橋下流、朝9時15分頃) 粕谷和夫
- (3) カジカガエル
4・15 浅川 (陵北大橋下流側約100m) 粕谷、河村夫妻
5・6 北浅川 (下恩方町元木橋付近) 探鳥会
5・25、6・24 湯殿川 (東橋—釜土橋) 平沢辰夫
- (4) アマガエル 3・24 八王子市川町 (今井会員宅の庭) 今井達郎
- (5) ホタル
6・14 15匹 } 八王子市高尾町、小仏川 川上 恵
6・24 20匹 } (鎌田橋—小林病院裏付近) "
6・24 8匹 南浅川 (甘里橋—白山橋) "
6・23 10数匹 八王子市中野上町 (青木茂氏宅) 粕谷、他
- (6) 番のチョウ 5・1 高尾小下沢林道で約9種類観察 粕谷和夫

自然と野生についての一考察

平 沢 辰 夫

開発による自然破壊とか、河川がコンクリートによって生体反応を失くしたとか、市街化によって動物達が減少したとか、と云うことはよく言われ、私などもそうしたことに心を痛み、腹立たしささえ覚えてきた一人であることには間違いない。

たしかに、大自然の中で生き続けて来た動植物は、その自然の天恵のリズムがこわされることによって、致命的な打撃をうけて絶滅の運命を辿ったり、生存の危機にさらされて、自然の残る地域に後退していかざるを得ないであろうということは、誰にも分かることである。

而して又、見方を変えて考えると、現代の人類達が、果してただそのように無知、非情であろうとは思えないし、多くの観察、調査結果や、注意深く見ることによって快適に生きようとする地域作りや造形に、十分に彼等との共存、ふれ合いへの努力も又大きく生かされてきつつあるということを認めたいのも、私一人ではあるまい。

つまり、自然、自然と言ってさわいでいるのは、我々人間の側だけのことで、彼等特に翼を持って移動が自由な鳥達などにとっては（勿論、種による例外はあろうが）コンクリート化された環境であっても、岩や山とそう大した違いではないのではなかろうかと思う極端な考え方も、一方で出来るのではないだろうか？

現に、去年から今年にかけて、私達自らが確認してきた数々の現象を挙げて、人間の居住圏、いわゆる開発されて、都市化された地域への彼等の帰化、順化、定住、繁殖とか、生態の変化等の実例を見ても、彼等の方こそ、人間との安全な共存ということを生の本能からくる賢さで、感じとってきているのではないかと、私は考えざるを得ないのだ。

この、一年半に及ぶ期間、遺跡堀りという名で、多摩センター地区の丘陵地帯の山で、木や草を伐採し、山肌を剥いで掘るといふ自然破壊の張本人のような仕事に就きながら、そうした現場に多くの鳥達が集まって来て餌をあさったり、何台という重機がうなって作業している中で、表土を剥がすパワーショベルのバケットの先端に平気でとまって、掘出される虫などを探すルリビタキ、ジョウビタキなどを身近に見ながら、こうした想いを強く感じ続けたものである。

開発の是非の問題とは全く別にして、美しい地球の上に、限りない絶対の平和と、

生きとし生きるものの共存への知恵を信じながら、会員諸氏からの反論を覚悟で

一文を供した次第である。

カワセミに会いたい

檜原中学校・PTA

小川京子

一月の雪が多く、寒い日が続いたある日、PTA主催のバードウォッチング「浅川の冬鳥の観察」に参加しました。「八王子カワセミ会」の方々のご協力により実施され、ものめずらしさから興味をもちました。

鳥といえば、カラス、ハト、スズメ、くらいの知識しかなく、きれいな鳥たちは、図鑑でないと、お目にかかれぬものと思っていました。

集合場所の鶴巻橋へとやってきて、カワセミ会の方々のご指導で、観察の仕方や、注意を受け、鳥たちをおびやかさないようにと、少人数ずつまとまって、間隔をあけながら出発しました。

まもなく、“カワラヒワだ”と言って、望遠鏡をのぞかせてくれた時の感動は、きっと忘れられないでしょう。

うすいピンクのくちばし、黄色の翼、まさに図鑑でしかみられなかった、きれいな鳥達、肉眼では、ただの黄色の鳥があんなにきれいだなって。

黄色いパンツのコガモ、首に青と白の横縞模様のキジバト。イカル、ジョウビタキオナガ、セグロセキレイ、みんなで順番に望遠鏡をのぞくので、自分の番には、鳥が飛んでいって見られなく、がっかりする場面もありましたが、それぞれ特徴を覚えることも面白く、終わりの方では、いくつかの名前を当てることさえできました。

途中、カワセミをみかけた人もいましたが、私はあのあこがれのカワセミに会えなかったのが、ちょっぴり心残り、いいえ、また次の機会には是非あってみたいものだと思います。

河原の土手もだんだんと石畳がしかれ、鳥達には住みにくい環境になりつつあると聞きますが、鶴巻橋から松枝橋近くまで、33種類の鳥達に会えました。東京の数少ない自然がもっともっとたくさんの人達に愛され、これからも見守られていかれますようお願い申し上げます。

お天気に恵まれ、半日の間でしたが、早起きして参加し本当によかったと思います。

今度は是非カワセミに会わせて下さい。♡・・・



はじめて観たヤマセミに 皆大感激！

「DBS歩こう会」 高木香寿枝

この度、貴会報誌に寄稿させていただく機会をお与え下さり、ありがとうございます。

3月10日 私達「DBS歩こう会」第2回目のバードウォッチングに、勤め先の上司のお友達でいらっしゃる三好様のお骨折りで、当日はお忙しい中を、粕谷会長様棟沢様のお三方を先生にお迎えして、快晴の多摩川を、聖跡桜ヶ丘のニセアカシアの林の辺りから、大栗川合流点付近までの間をウォッチングしました。

私達は双眼鏡のみであったため、お持ちいただいた望遠鏡の中の世界にすっかり魅了されてしまいました。当日は会員の方々でもなかなか見ることが出来ないと言われた、オオタカ、番いのチョウゲンボウ、ヤマセミ等が一度に観察できて、本当にラッキーな一日でした。

オオタカが眼光鋭くあたりを見ながら餌を食べているまわりを、カラスが隙あらばと餌を狙って数羽がとり囲んでいる様子を目のあたりにして、皆しばらくその場を離れられませんでした。

又、カモ達が一斉に急に飛立ち、何事が起きたのかと思っていましたら、先生方が素早くチョウゲンボウの出現を教えて下さり、関戸橋傍の一本の木に番らしい姿を捉える事ができました。

その結果、当日は、35種もの野鳥を観察することが出来、また鳴き声だけでも2種確認しました。何処に何がいるのか、殆ど分からない私達に、僅かの動きにもサッと望遠鏡の焦点を合わせて見せて下さった先生方に、一同関心するばかりでした。

特に河原の石の間に僅かに顔を覗かせていたタシギをあざとく見つけられた時は、本当にびっくりしました。大栗川合流点に近づいた頃、先に到着されていた先生方の「ヤマセミがいますよー」との声に、大急ぎで駆けつけてみると、対岸の木の枝に姿形は奇妙ながら白黒のモダンな羽を身につけたヤマセミを見て、一同感激しました。

特に、高い木の上からダイビングをして、見事に魚をくわえて木に戻る姿を見て、歓声をあげてしまいました。土手の上には大勢のマニアがヤマセミに望遠カメラを構えて一列に並び、シャッターチャンスを待っている様子も印象に残りました。

これまでに、多摩川辺りを何回か歩いたことがありますが、こんなに近い所でヤマセミを身られたことは、私にとって全く驚きでした。私達のバードウォッチングは、まだほんの入口ですが、この日以来、会社でも野鳥の話に夢中になっております。

「最近特に野生の動植物をとり囲む環境は悪くなる一方です。絶滅させたりしないことが次世代に引き継ぐ為に大切な事だと思っておりますが、実際に行動を起こすのは大変なことです」 そのような中で、八王子カワセミ会の皆様のご活躍には、頭が下がります。私達もゆっくりペースでこれからもウォッチングを続けて行きたいと思っておりますので、今後共よろしくご指導をお願い致します。皆様のご活躍とご繁栄を心から祈念申し上げます。 本当に有難うございました。

カルガモ繁盛記-その2-

小山万太郎

今年も又浅川にカルガモの親子連れが見られる季節となりました。

先刊「カワセミ」第3号に投稿の際、疑問に思った点を次号への宿題としておいたので今年のカルガモについて観察している中で感じた問題点について述べてみました。

子連れの初観察は、去年は5月30日でしたが、今年は5月12日にほぼ同じ場所で、18日も早く見ることが出来ました。

家族数も、6月23日現在で

大和田橋	上・下流	11家族	77羽	
浅川大橋	上・下流	2家族	13羽	
曉橋	上流	6家族	45羽	を数えした。

これを、昨年と比較してみますと、

平成1年・観察期間	51日	10家族	35羽	
平成2年・	41日	19家族	135羽	となります。

昨年に比して今年は増水の度数が少なかったため、営巢の流失が無かったこと、その為に時期も早くフ化したのではないか。

又、増水に因る濁（汚）水の入替わりも無かったため、カルガモの餌が昨年よりは豊富だったのではないか。

親子連れがいる場所は、流れのある場所よりも、溜り水のある所の方に多く見られた。以上の様に観察の結果を、私なりに判断してみました。

若し、私の判断がカルガモ繁殖の条件となっているとすると、カルガモの繁殖度と河川の汚染度とが比例しているとも考えられます。

何時も浅川の河原で見ることが出来、親しみをもって接しているカルガモも、若し数が増えていくとすると、一市民として複雑な気持ちにならざるを得ません。

私の問題提起に皆様からの御教示をお願いする次第です。

浅川の野鳥展開催記念特別号（会報カワセミ別冊）発行決まる

平成2年4月29日に実施した浅川の野鳥展の成功を記念して、この度会報カワセミの別冊として記念特別号を発行することになり、阿江会員を中心に編集委員会を結成して取り組んでおります。

八王子信用金庫、サントリーのご後援と商店街の皆様のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

私の「カワセミかい」所見

小 助 川 千 枝 子

- カ ----- 会長がすぐれもの。
ワ ----- 和気あいあいで、
セ ----- 世話が行届き、
ミ ----- 見栄えは良くないが、
 (日本野鳥の会の男性はオシャレです。はじめて
 カワセミ会に参加したとき、はっとしました)
か ----- カウントが正確な、
い ----- いい会です。

小山様の鳥の会にいきましたとき会長が、一匹の造鳥を指さして
「これはなに鳥のつもり」と、おっしゃいました。

優しいだけが男じゃない。

その厳しさに胸がジーン。

カワセミ会の土台はあのシュガーカットの目で造られたのでございましょう。

井戸の外

小 山 万 太 郎

井の中の蛙の様に、何時も浅川ばかり探鳥していた私が、久しぶりに金沢の百万石祭り見物のついでに、犀川のはとりを4回程探鳥してきました。

川は2級河川だそうですが、川幅、水量共に浅川と同じ位で、兩岸共果てしなく続く芝生は良く整備され、未だ午前4時半というのに数人もの人達がジョギングやらゲートボール、女性の方は芝生にレジャーマットを敷いてエアロービクスに興じる姿などに会いましたが、ウオッチャーの仲間とは一人も会えなかったのが残念でした。川岸を歩いても浅川の様汚濁の臭いなど全く無く、ですから遠方の白いものをコサギと間違える様なビニール袋や発泡スチロールも勿論棄ててはありませんでした。

水がきれいなためか？カルガモの数はめっきり少なく、繁殖例も探鳥中に2組の家族を見ただけでした。

キジは放鳥されていると聞きましたが、数は実に多く、岸边は当り前のこと、畑の畔道や停留所付近にまで、大きな羽音たてながら鳴いていました。

探鳥した範囲は、約6^{km}位で、この間に9ヶ所もの橋が架けてありましたが、午前7時頃からは、どの橋も交通量が急増し、川と川とに挟まれた都市だという実感を味わいました。

上流の方の小さなダム付近には、鳥の種類や数も多く、双眼鏡などはいらない

位の所でヒナを背負って泳ぐカイツブリ、長い指で葦の葉を踏みつけ乍ら歩くパンの親子、水の上をまるで駆けるように足でけりながら飛び去るオオパンの姿や、20cmもあるナマズをワシ掴み？にして水面スレスレに飛ぶトビ、石ガメに戯れるハシボソガラスの群れ、など飽きることなく観察しました。

それにしても、時折り羽を休めにダムの縁堤に止まるアオサギ、ゴイサギ、ササゴイの数の多さには驚きました。

その割合にコサギは少なかったように感じました。

又、長めの尾をそり反えさせるようにして声を響かせ乍ら飛んでいくカッコウや、中でも、朝露に光る芝生の中で昆虫をついばむコムクドリの頬の赤茶色の紋様が印象的でした。

会員の三好さんからも、金沢付近の探鳥の穴場のパンフレットをいただき乍ら時間の都合で遠出が出来なかったのが、心残りに思っていますが、9日間の日程の中で4回もの探鳥の時間がとれた事は私なりに満足しております。

最後に、越前松島の水族館で数多くの野鳥が飼育されているのを金網を通して間近にゆっくりと観察出来た事を報告しておきます。

第5回・朝霧高原探鳥会（5月26日、27日）

河村 道寛・洋子

参加者：藤江、三好、椋沢、斎藤、門口、平沢、今井、馬場、河村道寛・洋子
計10名。（今回は粕谷会長の参加がなく残念でした）

絶好の探鳥日和に恵まれ、9時前、板妻高原でウオッチング。

車から降りた途端に、鳥のさえずりが聞こえ、あわててフィールド・スコープをセットし、声を探せば、「ノビタキ！」「オオヨシキリ！」「モズ」の歓声。

さらに過眼線の上の白さがはっきり見えるコヨシキリ、卵牧場の鶏卵を盗んで飛去るカラス、さわやかな5月の風の中、幸先の良いスタートとなりました。

板妻高原：トビ、ヒバリ、☆ノビタキ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、
☆ホオアカ、スズメ、ハシブトカラス、
／声のみ：カッコウ、ウグイス

次は車で5-6分程の忠ちゃん牧場。全員で新鮮な牛乳を飲み、牧舎の裏に回ると、カッコウが杭にとまってじっくり姿を見せてくれました。

忠ちゃん牧場：キジバト，カッコウ，ヒヨドリ，モズ，シジュウカラ，カワ
ラヒワ，スズメ，ワシタカ類（判別不明）／声のみ：ウグイス

愛鷹山の西、越前岳の麓で昼食をとり、越前橋でウオッチング、さらに越前
岳を巻いて走ってみました。成果は今一。

越前岳の麓：トビ，キセキレイ，ヒガラ，シジュウガラ，ホオジロ，ハシボ
ソガラス，ハシブトガラス，／声のみ：カッコウ，ウグイス

車で山中湖の北を周ると、林の中からセンダイムシクイの声が聞こえ、湖畔
の土産物屋の柱の陰にイワツバメが飛び込む姿も見えました。

2時半、鳴沢村の藤江さんの別荘に着くと、ヤマガラが姿を見せ、他にも鳥
のさえずりがたくさん聞こえてきました。驚いたことに、入口の右上にミソサ
ザイの巣ができていました。時折、主のミソサザイが僅か数羽まで寄ってきて
は、こちらをうかがっていました。

第1日・別荘周辺：キジバト，コゲラ，★ミソサザイ，コマドリ，エナガ，
ヒガラ，ヤマガラ，シジュウカラ，カケス，ハシブトガラス
／声のみ：カッコウ，ツツドリ，ヨタカ，コルリ，ウグイス
クロツグミ，ヤブサメ，センダイムシクイ，イカル

夜はバーベキューの火を囲み、おいしく飲み食べ、演歌、軍歌、山の歌、唱
歌、青春の歌、思い出の歌と、尽きることなく皆でよく歌いました。中でも
全員がハシブトガラスとハシボソガラスに分かれ、「カーカー」「ガーガー」
と鳴いた「七つの子（カラスなぜなくの）」の合唱には、涙が出る程笑ってし
まいました。まさにカワセミ会は全員万年青年。多すぎると思っていた食べ物
も何時しか無くなり、10時をまわり別荘に入ってから、これからのカワセ
ミ会はどうあるべきかの議論が出、最後は何時どうなったやら・・・

2日目は4時すぎ起床、雲ひとつ無い赤富士ならぬピンク富士を見て、爽や
かな朝の冷気の中、周辺を歩くと、ヤマガラの親子、キビタキ、コルリ、リス
などに出会え、正に早起きは三文の得でした。

第2日・別荘周辺：キジバト，★ミソサザイ，★コルリ，センダイムシクイ

第2日（別荘周辺続き）

★キビタキ，エナガ，ヒガラ，ヤマガラ，カワラヒワ，イカル
カケス，ハシブトガラス，ハシボソガラス
／声のみ：コジュケイ，キジ，コマドリ，トラツグミ，クログミ
ヤブサメ，ウグイス

朝霧高原に8時20分に着き、ウォッチングスタート、残念ながらオオジシギは出ませんでした、アカモズは約束を果たしてくれました。

朝霧高原：トビ，キジ，キジバト，カッコウ，ホトトギス，ヒバリ，ツバメ
ヒヨドリ，モズ，★アカモズ，シジュウカラ，ホオジロ，アオジ
カワラヒワ，イカル，ムクドリ，ハシボソガラス，
／声のみ：コジュケイ，ウグイス [注] ★印はベスト6。

みなさんと本当に楽しい2日間を過ごせ、初めての鳥を5種も見ることができ充実した探鳥会でした。また、鳴き声の判別がいかにか痛感した探鳥会でもありました。

📖 会報「カワセミ」は本号をもって第5号の発刊となりますが、当誌は会員の他、自然の研究、保護等に関係する個人並びに諸団体に贈呈させていただいております。前号までに次の各位から礼状および激励の文をいただいております。

1. 山階鳥類研究所
2. 日本野鳥の会・本部
3. 同 研究センター
(所長 樋口広芳)
4. 八王子自然友の会 (会長 金井郁夫)
5. 高橋英昭 (野鳥専門家)
6. 渥美自然の会 (大羽康利)
7. 川村研治 (横浜自然観察の森・チーフレンジャー)
8. 住民図書館 (丸山 尚)
9. 高尾自然科学博物館
10. 八王子ランドマーク研究会 (柳川佳正)
11. 八王子中央図書館
12. 津戸英守 (野鳥専門家)
13. 田中和作，三浦参平 (日本自然保護協会サブ・レンジャー)
14. 都立立川図書館

「当研究所では鳥類及び自然関係資料の収集に力を入れております。お送り戴いた資料は大切に保管するとともに、大いに活用を図りたいと存じます。なお今後も、継続してお送りいただければ幸甚に思います。……」

抜粋：山階鳥類研究所からのお便り。

裏高尾小下沢から堂所山

粕谷和夫

1. 場所とコース

国道20号を高尾山方面に向かい、高尾駅から約1km過ぎると中央本線のガードがある。ここをくぐって直ぐの信号を右折すると、南浅川の支流小仏川に沿った道になる。この道はJR高尾駅から出ている小仏行きの定期バス路線であり、日影沢との出会いを過ぎて直ぐ、再び中央本線のガードを通過して出た所が「大下」というバス停、ここで大きく右折すると小下沢(コゲヲ)沿いの林道に出る。

ここから歩いて約30分、車で10分弱進むと小下沢野営場に着く。ここがこの探鳥コースの出発地だ。

野営場から小下沢沿いの道をハイキングペースで約1時間で関場峠に着く。探鳥のためには、ここまでを3時間位かけてゆっくり歩くことになる。

ここまでは林道となっているが車は入れない。林道の終点の上が関場峠であり、ここから右へ行けば八王子城跡、左へ行けば堂所山から景信山への尾根道縦走路となっている。関場峠から八王子城跡の方へ行くのも、堂所山から陣馬山あるいは景信山の方へ行くのも自由であるが、探鳥が目的であれば関場峠あるいは堂所山で折り返すことをお薦めする。

なお、景信山を経て小下沢野営場へ下るコースもあるので念のため。

ここを通るハイカーは比較的少なく、特に平日であれば、鳥以外誰にも会わない探鳥に向けた静かなコースである。

2. オオルリ、クログミ、アオバトがベスト3

このコースは関場峠までの沢道と、ここから堂所山までの尾根道で構成される。

沢道の両側は明るく開けており、天然林が多く残っていて、鳥の種類が多い。

ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイのさえずり、シジュウカラ、ヒガラ、コガラ、ヤマガラも負けじとさえずる。イカル、メジロの声も聞こえ、時々カケスが現れる。ホオジロ、エナガ、コゲラも出る。オオルリは谷沿いに一定間隔をおいて4~5羽、ミソサザイも沢の暗い所に一定間隔をおいて4~5羽、沢を覗いているとキセキレイの他カワガラスがすうーと飛んで行く。クログミは大きな声でさえずるので直ぐ判る。途中高圧線の下を通過するが、平成元年5月5日には、ここでコルリの声を聞いた。平成2年5月1日の時は、コルリは出ず、その代りここでサシバの鳴く「ピークイー」という声を聞いた。サシバもいるのだ。

関場峠から堂所山までの尾根道では、先ずアオバトの声が聞こえる。姿を見るのはなかなか難しい。平成2年5月1日の時は、ここでその他にキビタキの声をよく聞きアカゲラ、アオゲラ、コジュケイの声、ヒガラのさえずりも聞いた。ツツドリの声は平成元年5月5日には聞いたが、平成2年5月1日には全く聞く事ができなかった。

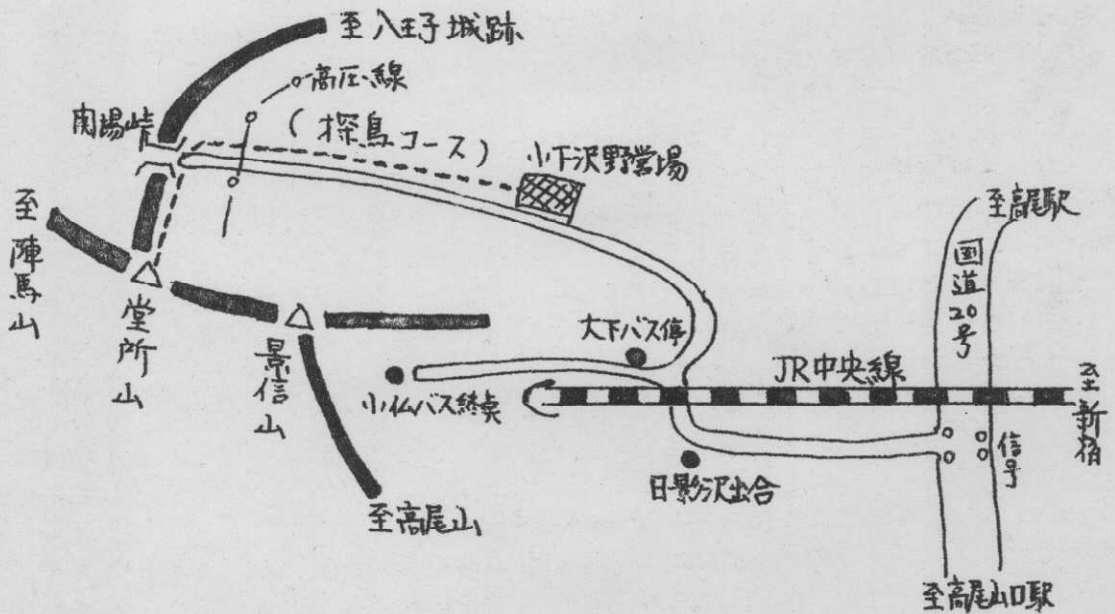
3. ツマキチョウ・ウスバシロチョウも・・・

ここの沢道は蝶の観察にも適している。昨年（平成元年）も本年も1組の蝶の採集者に出会ったが、蝶も探鳥と同様、捕らえることなく、自然のままの状態をウオッチングして楽しむという思想を早く定着させたいものである。

5月の沢道を歩いていて、よく目につく蝶は、サカハチチョウ、ツマキチョウ、ウスバシロチョウであり、その他にルリタテハ、テングチョウ、カラスアゲハ、ナミアゲハ、ベニシジミ、トラフシジミも、それぞれ美しい姿を楽しませてくれる。

小下沢探鳥コース周辺案内図

(-----探鳥コース)



雁風呂を夢見て覚めし雁の宿

秋、雁が海を渡って来る時、海上で休むために木片をくわえてきて、浜辺に落として行く。翌春帰る雁が、又、それをくわえて飛立つが残った木片の数だけ捕えられたり、死んだものとして、村人達がそれを集めて風呂をたてて供養したという、津軽地方の伝説からできた季題

伊豆沼探鳥行のとき、この季語のことが私の頭の中に絶えずあり、こんな句となって表出した。

花鳥に肌身をさらして野天風呂

探鳥を兼ねて伊豆の西海岸に遊んだ。ツバキの咲き乱れる崖淵に作られた野天風呂。

それを覆うような桜も丁度満開。

花を吸うヒヨドリやメジロ達の他は自分一人だけの豪華な気分の

一刻・・・・・・・・



Hachiōji
Kawasemikai

カワセミ

1990年 8月 第 5 号

発行人 粕谷和夫 (八王子カワセミ会・会長)

編集人 三好恒雄

連絡先 八王子市中野上町5-29-3 TEL・0426-26-8634